

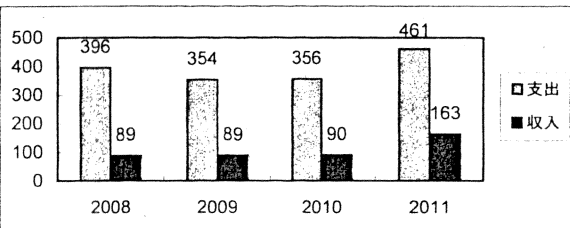
施設概要説明資料

1.対象施設						
名称	町田市立総合体育館					
所在地	町田市南成瀬5-12				土地	19,120.11㎡
建物	地下1階付き4階建	24,766.60㎡	構造	鉄筋コンクリート造	築年数	20年
運営方法	☐ 町田市直営 ☒ 指定管理者制度 ☐ 業務委託 ☐ その他（ ）					
運営への 市民参画	☐ あり ☒ なし					

2.施設の目的		
設立時の 目的	市民のスポーツの振興と体力づくりの推進を図り、もって市民の健康で文化的な生活の向上に 寄与するため	
現在 提供している 主なサービス	対象顧客	サービス内容と提供価値
	スポーツをする人	スポーツをする場を提供することで楽しさ・健康増進・生きがいを醸成する
	スポーツを見る人	高いレベルのスポーツを観戦する場を提供することで楽しさ・感動・一体感・郷土愛を醸成する
	スポーツを支える人	試合やイベント、大会の運営に携わることで、生きがい・一体感を醸成する
中期経営計画 との関連	重点事業3-6-3 市民スポーツ振興 重点事業4-3-3 東京国体開催 重点事業4-3-4 スポーツイベント開催支援	
関連法令 ・条例	町田市体育施設条例、町田市体育施設条例施行規則	

3.施設の運営・管理にかかる費用と収益

支出と収入の推移(単位:百万円)

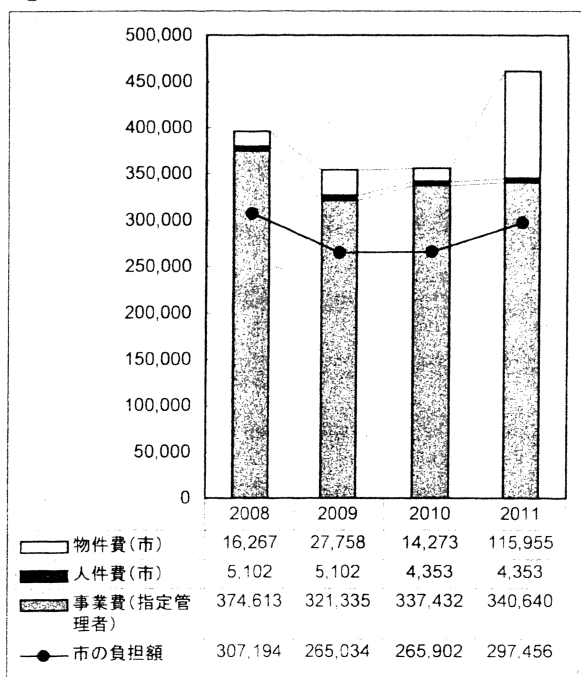


グラフの見方

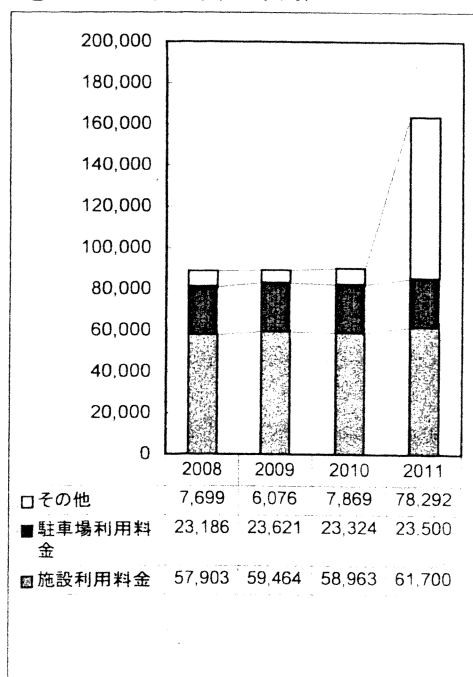
支出と収入の差額が市の負担額となっている。

職員人件費については、2009年と2010年の実績データをもとに、2008年と2011年を予測して計上している。

①支出(事業関連経費総額)の内訳(単位:千円)



②収入の内訳(単位:千円)



担当 文化スポーツ振興部 スポーツ振興課 課長 笠原 道弘

電話 724-4036

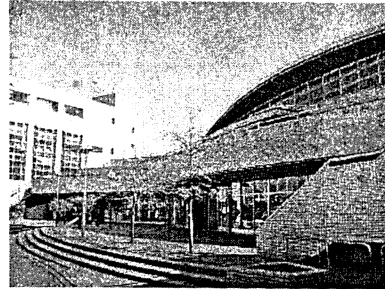
施設概要説明資料【補足資料】

1.対象施設

- ・町田市立総合体育館は、メインアリーナ、サブアリーナ、小体育室、武道場、和洋弓場、トレーニング室等を有する体育館である。
- ・事業としては、施設の利用に関するほか、各種スポーツ教室の開催やスポーツレクリエーションの指導及び普及に関することを実施している。
- ・運営は指定管理者である、日本テニス事業協会共同企業体が行なっている。

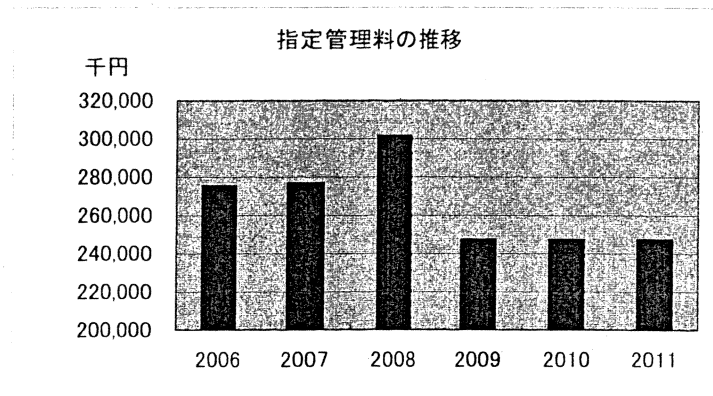
2.施設の目的

- ・市民がスポーツに親しめる場を提供することで、心身の健康増進や青少年の健全育成など明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に役立つことを目的としている。
- ・大規模な大会やイベントを開催できる規模や機能を有する施設であるが、一般的な市民の利用を優先している。
- ・施設の目的を達成する手段として、これまでは「する」スポーツを中心としていたが、スポーツ活動として、「みる」スポーツの重要性が増大している。



3.施設の運営・管理にかかる費用と収益

- ・総合体育館の運営・管理にかかる費用は、東京国体の開催に係る改修工事費用を含んでいる。
- ・このため2011年度の支出が増えている。
- ・収入についても、改修工事に関してスポーツ振興くじ(toto)と東京都の補助金を予定しているため、その他が高くなっている。
- ・市の職員は、指定管理者が実施するスポーツ振興事業や自主事業についての協議や調整などを行なうほか、市で実施する大規模な修繕や長期を見据えた工事計画の策定などを行なっている。



担当

文化スポーツ振興部 スポーツ振興課 課長 笠原 道弘

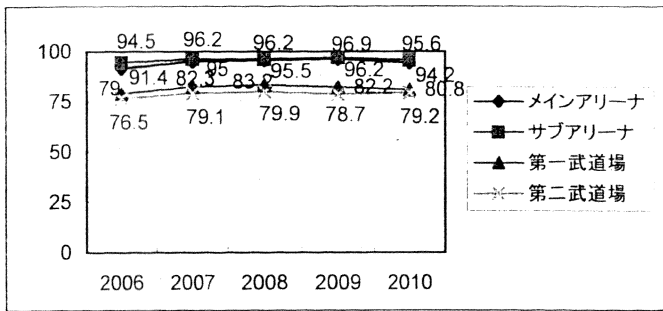
電話

724-4036

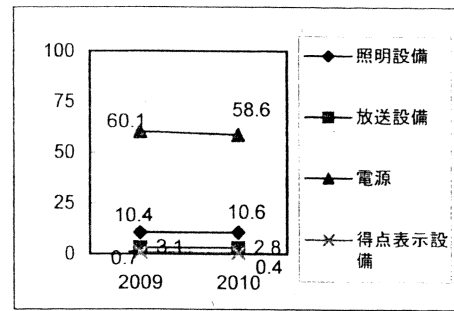
施設概要説明資料

4.利用状況の推移

【E】施設の利用率(回数)(利用人数)



【F】付帯設備の利用率(回数)



利用者の特徴: 専用利用には団体登録が必要なため、利用者が固定化する傾向がある。

5.実施した改善(2008年度から2010年度までの3年間を対象期間とする)

改善ニーズと把握方法	全体的な利用者のニーズ把握として、年度末にアンケートを実施している。また、個別事業に対してもスポーツ教室開催ごとに参加者にアンケートを実施している。				
改善の内容	施設面		運営面		
	・正面玄関南側奥へのスロープ設置 ・施設案内表示板改修		休館日における備品のメンテナンスや器具庫内清掃を重点的に実施する		
活動の成果	成果指標	2008年	2009年	2010年	2011年目標
	利用率(メインアリーナ)	95.5%	96.2%	95.5%	96.5%
	スポーツ教室参加者数	8,515人	9,958人	10,875人	12,000人

6.今後の方向性

2016年に目指す姿	「する」スポーツと「みる」スポーツが共存している施設		
予測根拠	利用者の動向	☒ 増加する ☐ 減少する ☐ 変わらない	・ホームタウン・チームの活躍、周知により観戦者の増加 ・高齢化により元気な高齢者の増加
	代替手段	☐ 代替施設・サービスあり ☒ 代替施設・サービスなし	町田市内には、総合体育館のメインアリーナ規模の床面積や観客席を有する体育館はない。
	市民ニーズの動向	☐ 増加する ☐ 減少する ☒ 変わらない	
課題	大規模な大会やイベントが開催できる施設であるが、市民利用を優先していることから、規模に見合った有効的な活用ができていない。		
改善・解決の方法	サン町田旭体育館や学校開放の体育館との役割分担を見直し、総合体育館の優先予約について、大規模な大会やイベントのための利用枠を設定する。		

7.他自治体比較

自治体・団体	八王子市	立川市	府中市	相模原市	町田市
比較指標					
メイン面積	1,540㎡	2,227㎡	1,512㎡	2,214㎡	2,400㎡
観客席	504席	372席	928席	1,598席	2,784席
利用料金※	6,000円	12,000円	6,000円	8,400円	8,700円
比較コメント	各市の市民体育館、総合体育館の比較で、町田市の総合体育館(メインアリーナ)の規模は大きいことがわかる。				
担当	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課 課長 笠原 道弘			電話	724-4036

施設概要説明資料【補足資料】

4. 利用状況の推移

- ・メインアリーナを始め、利用率は非常に高い状況で推移している。
- ・このため利用予約がしにくい状況でもある。
- ・付帯設備については、電源を除いて、利用が大会やイベント時に限られるため、利用率は概ね低くなっている。
- ・2007年度から日本フットサルリーグ(Fリーグ)のASVペスカドーラ町田のホームアリーナとして試合が開催されている。

年度	試合数	観客数(人)
2007	3	5,119
2008	7	10,767
2009	12	16,070
2010	12	12,479

- ・日本バレーボールリーグ(Vリーグ)の試合や全国と関東の私立高等学校男女バレーボール選手権大会が開催されている。

5. 実施した改善(2008年度から2010年度までの3年間を対象期間とする)

- ・2009年度から指定管理者を民間事業者に変更したことにより、運営や対応について良くなったとの意見をいただいている一方で、民間事業者のノウハウを活用することにより、管理運営コストの縮減に努めている。
- ・例えば「省コスト・人員の最適化」として、運営に携わる職員には、受付・トレーニング室・教室業務、可能な範囲での維持管理・保全業務を行なえるよう教育訓練し、マルチスタッフの育成に努めることで人件費の抑制に努めている。

指定管理料

2008年度: 301,621千円

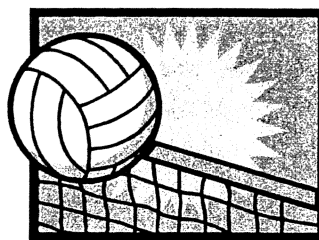
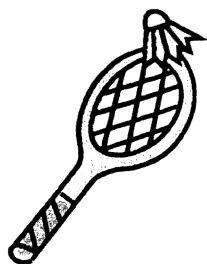
↓

2009年度: 247,337千円

差額 △54,284千円

6. 今後の方向性

- ・2013年に開催される「スポーツ祭東京2013」(東京国体)のための施設改修が2011年度に実施予定となっている。(総合体育館は、バドミントン(全種別)とバレーボール(少年男子・少年女子)の会場となっている。)
- ・改修した施設を有効活用するためにも、国体後も大規模な大会やイベントでの利用を増やす必要がある。
- ・利用率が高いため、大規模な大会やイベントを増やすことは、一般的な市民利用を制限することになるため、「みる」スポーツの振興の必要性や効果を利用者に周知、説明する必要がある。
- ・受益者負担の適正化の観点から利用料金の見直しを検討する必要がある。
- ・指定管理者による管理運営について、より民間事業者としてのノウハウを発揮してもらう必要がある。



7. 他自治体比較

- ・近隣市では府中市総合体育館が、Fリーグの府中アスレティックフットボールクラブのホームアリーナとなっている。
- ※左記の利用料金は、全面を3時間利用する場合
(参考)3時間、1,000㎡当たり利用料金(円)

八王子市	立川市	府中市	相模原市	町田市 総合体育館	サン町田旭
3,896	5,388	3,968	3,794	3,625	3,635

担当 文化スポーツ振興部 スポーツ振興課 課長 笠原 道弘

電話 724-4036